

就学前施設から小学校への接続サポートとして
— 学生による小学校紹介動画制作の試み —

佐々木 利子¹ 川口 めぐみ²

Supporting the connection from preschool facilities to elementary schools
- Students' initiative to produce videos introducing elementary schools -

SASAKI Toshiko KAWAGUCHI Megumi

要約

この研究ノートの目的は、幼稚園・保育所・こども園等(以下、就学前施設)から小学校への就学期の円滑な接続のために、小学校の紹介動画を制作し、その効果について検証していくものである。研究ノートでは、最初に就学前施設と小学校の接続に向けての取り組みの経緯とそこでの課題について確認し、次にそれらも踏まえながら実施した小学校紹介動画制作について説明する。また、完成した動画は高松市内の就学前施設、小学校に配布し、活用結果についてアンケートを実施したので、その結果について考察を行った。

結果として、動画視聴による子どもやその保護者の学校生活への安心感が見られ、円滑な接続への一助となることが確認できた。

また、紹介動画制作を担った学生については、就学前施設と小学校との接続について探究する機会となるだけでなく、ICT 技術の向上につながる一助となった。

キーワード： 就学前施設と小学校との連携・接続、学生の ICT 技術の向上

Abstract

The purpose of this research note is to consider the production of a video introducing elementary schools and to examine its effectiveness during the school year in facilitating a smooth connection for children moving from kindergartens and nursery schools (hereafter pre-school facilities) to elementary schools. This research note first reviews the history of efforts to connect pre-school facilities with elementary schools and the issues involved, and then explains the production of elementary school introductory video while also taking related issues into account. The completed videos

受理年月日：2024 年 11 月 29 日

¹ 高松短期大学保育学科講師 ² 高松大学発達科学部准教授

were distributed to pre-school facilities and elementary schools in Takamatsu city, and a questionnaire survey was conducted on the results of their utilization, which were then analyzed. As a result, it was confirmed that children and their guardians felt more secure in their children's school life after viewing the video, and that it helped to facilitate a smooth connection. For the students who were responsible for producing the introductory video, it was not only an opportunity to explore the connection between pre-school facilities and elementary schools, but also helped them to improve their ICT skills.

Keywords : cooperation and connection between pre-school facilities and elementary schools, improvement of ICT skills, childcare students

1. はじめに

1. 1 幼小連携に係るこれまでの経緯

就学前施設と小学校は、両施設の生活の在り方の違いもあり、その円滑な接続に向けて、これまで継続した様々な取り組みが行われてきている。

筆者が高松市立幼稚園 5 歳児担任をしていた 1995 年ころから、近隣の小学校との継続的な交流は行われていたが、2000 年頃には幼稚園・保育所・小学校の交流の必要性が強くいわれるようになり、教育委員会主導のもとに定期的な職員研修及び交流の機会がもたれるようになった。その背景として、就学後、教室で座って授業を受けられない、話をして授業の妨げになる等、1 年生の授業が成立しにくい状況があった。これらは小 1 プロブレムと呼ばれ、全国的にみられる現象であったと記憶している。現に、東京都が 2009（平成 21）年 7 月に実施した調査の結果によると、公立小学校長の 23.9%が、1 年生で授業が成立しない状況があった、と回答しており、小学校の 4 校に 1 校で「小 1 プロブレム」が発生していることが明らかとなっている（東京都教育委員会，2009）。また、文部科学省の幼児教育の推進体制構築事業の一環で、名張市が行った 2016 年の調査においても、市内の小学校の 3 割で立ち回るなど授業規律が成立しない状態にあり、小 1 プロブレムの問題について長年解決ができていない現状が明らかとなっている（名張市教育委員会，2018）。

そのような状況を踏まえ、研修内容としては、相互の授業参観、幼・保・小教職員の保育及び授業体験交流等で、子どもたちの交流を進めていくためにも、教職員が互いの教育・保育内容を十分に理解する必要性が認識されてのことであった。

この時期の国の動きとして、文部科学省では 1999 年度からの研究開発学校の新しいテーマとして「幼稚園と小学校の連携を視野に入れた教育課程の研究」を取り上げ、東京都の中央区立有馬小学校・有馬幼稚園がその指定校として 3 年間の研究指定が行われている（有馬幼稚園ら，2002）。その報告書である「幼小連携のカリキュラム作りと実践事例」によれば、新たな連携活動を計画するというよりは、これまでにやってきている活動を丁寧に見直し、

より充実するために活動内容のもち方や計画を見直していったところが大きいと感じられた。また、これまで行ってきたことを新たな視点で捉え直したり意味付けをしたりしていくもので、子どもにとってのより望ましい連携をするために、土台となる教職員の意識改革が問われていると感じるものであった。

そのような中、2010年には幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について、調査研究協力者会議の報告が出され、発達や学びの連続性を保証するためには、円滑な接続・体系的な教育を組織的にすることが重要であることが確認された（文部科学省，2010）。その中でも、連携・接続の体制づくり、教職員の資質向上等、連携・接続を進めていく上での基礎となる部分の充実を図ることとともに、子ども同士の交流等に積極的に取り組むことが打ち出されている。

その一例として、例えば、横浜市教育委員会（2012）においては、2012年に「～横浜版接続期カリキュラム～育ちと学びをつなぐ」を作成し、接続期カリキュラムの必要性、その具体である「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の考え方、及びその実践事例を横浜市内の就学前施設及び小学校に周知している。それにより、共通の方向性をもって幼小連携に取り組み、2015年には各施設で取組んだ0歳から小学2年生までの内容を実践事例集としてまとめている（横浜市教育委員会，2015）。

筆者が現職時代に在籍した高松市でも、幼保一体化事業を踏まえ、2011年には就学前施設での保育カリキュラムの共通化を図ってきたが、就学期のプログラムも視野に入れ、0歳から小学1年生までの現場教職員をメンバーとして、カリキュラム作成を行ってきた経緯がある。具体的には、幼稚園・保育所の全体的な計画を、0歳から小学1年生前半期までを範囲として作成した（高松市，2011）。また、それと併せて、同一校区の幼稚園・保育所と小学校とが協力し、5歳児後半から小学1年生までの時期に焦点を当て、「アプローチ・スタートカリキュラム」の作成を行い、交流・連携活動に取り組んできた。

筆者も現場において幼小連携に取り組む中で、様々な資料等を参考としてきたが、横浜市の実践事例集における考え方は、非常に重要なものと捉えた。実際に就学前後となる5歳児後半から1年生前半までの子どもだけを対象とするのではなく、0歳児からこどもの「主体性」を引き出す保育者・教師の関りの重要性に着目し、就学前施設での生活がすべて就学後に繋がっていくという視点は、子どもの育ちの本質を示していると考えたためである。

その後、2015年に幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂された際にも、幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿が小学校と共有され、連携・接続に取り組む際の重点が示されている。それらを踏まえ、子どもたちが相互の施設やそこでの生活の様子を知ること、交流を通して互いが身近な関係になって行くこと等により、就学への不安解消・期待の高揚を願って、年間を通して計画的な交流が行われてきた。それとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿」の「育ち」は、就学前施設で過ごすすべての期間を通して培われていくものであるとの認識も明確化されてきたと感じている。

1. 2 社会的状況の変化に伴う交流の在り方の見直しから動画制作へ

2020 年当初からのコロナ感染症対応では社会生活そのものに大きな影響が出たが、就学前から大学に至るまで、教育・保育機関においても登園・登学自粛が続き、その解除後も人との関わりを極力避けることが日常となっていた。このため就学前施設と小学校との直接的な交流も難しい状態となっていた。現に、横浜市教育委員会（2021）の調査では、子ども同士の交流会では実施していないと回答した園が 7 割にものぼっており、交流や連携の難しさがあったことが示されている。また、2021 年には就学前後に生活の変化への不安を感じている子どもの様子が、これまでになく見られるようになったと現場保育者・教員等から伺った。また、小学校生活に慣れるまでの時間の長期化も気になる点として挙げられていた。

そのような状況の中でも、各就学前施設においては、小学校生活に繋がるようなアプローチ・カリキュラム内容を考え取組まれていたが、これまでのように小学校の様子や生活に触れる経験がないことへの対応について悩まれているとの声があった。

そこで、このような状況へのサポートとして、学校での生活の流れや様々な場所を知ること、子どもたちの就学への不安を少しでも解消することができればと考え、小学校の生活を紹介する動画を制作することとした。

また、この紹介動画は、コロナ禍への対応だけでなく、これまでも見られていた就学前施設の立地条件等による、小学校との交流頻度の差にも対応できるものと考えた。公立の幼稚園・保育所等は比較的小学校の近隣に位置し、往来がしやすいが、私立の施設の場合はその立地によっては小学校までかなり遠い場合もあり、一様に交流を行うことが難しい。そのうえ、通園バスを利用することで市内全域から通園しているため、園児の就学先でない小学校との交流のもち方に苦慮する面もあるようであった。そのため、この動画を出来るだけ汎用性の高い内容にすることで、そうした就学前施設でも活用できるのではないかと考えた。さらには、特別な支援を要する幼児に対し、この動画を利用し視覚的に情報を伝えることで、小学校生活への理解が深まるといった活用も考えられる。

以上のような経緯及び活用の見通しを基に、動画制作に取り組むこととした。

2. 学生による紹介動画制作の概要

2.1 撮影協力校

高松市内の小学校 1 校に撮影協力の許可をいただいた。その際、学校の情報や児童の個人情報流出されないよう掲示物等には細心の配慮を確認した。また、就学前施設の写真については、本学附属幼稚園に撮影協力の許可をいただき、教員が撮影をした。

2.2 参加学生

動画制作に参加した学生は、令和 4 年度高松大学発達科学部 4 年生 5 名（乳幼児保育研究ゼミナール）であり、保育者を目指す学生であった。参加のきっかけは、参加学生の中に、小学校と就学前施設の接続をテーマに卒業論文を執筆する学生がおり、ゼミナールの授業においても、このテーマについて何度も議論していたことが挙げられる。さらに、

ICT 機器に興味や関心があり、普段から情報機器を積極的に活用していた学生が在籍していたことも参加理由として挙げられる。

2.3 紹介動画制作までのプロセス

紹介動画制作までのプロセスについては、以下に示す通りである。

- ①協力園である 2 園の 5 歳児担任へ聞き取り調査の実施：小学校のとの接続について、担任自身が感じていることや子どもたちとの話し合いの内容について聞き取り、動画制作の足掛かりとする。（令和 4 年 5～6 月）
- ②動画内容についての検討（令和 4 年 6～7 月）
- ③制作（プロット検討・撮影・編集）メンバーの決定（令和 4 年 7 月）
- ④撮影協力校への依頼と具体的調整（日程、撮影場所等）（令和 4 年 7 月）
- ⑤プロットの作成（令和 4 年 8 月）
- ⑥動画撮影：高松市内の公立小学校にて学生 4 名と教員 2 名の計 6 名で、2 日間で撮影する。（令和 4 年 8 月後半）
- ⑦動画編集：学生 5 名によって、編集作業を実施する。（令和 4 年 9 月～令和 5 年 1 月）
- ⑧DVD の内容検討及び修正：高松市教育委員会により、内容の最終確認をしていただく。（令和 5 年 1～2 月）
- ⑨DVD の配布：協力園・協力校に配布し、視聴後のアンケート調査実施・回収（令和 5 年 2～3 月）これをもとにアンケート内容の見直しを行う。
- ⑩DVD 配布準備
- ⑪DVD の配布：高松市内の公私立の保育所・こども園・幼稚園及び小学校に配布（令和 5 年 10 月）
- ⑫視聴後のアンケート調査の実施（令和 5 年 10 月～令和 6 年 3 月）

2.4 紹介動画の構成

紹介動画の構成は、以下の 3 部構成になっている（図 1）。

- ① 小学校の一日の生活編（約 12 分）

登校から下校までの 1 日の生活の流れを紹介する内容になっている。

- ② 小学校の探検編（約 3 分）

図書室、体育館、プール、職員室、校長室、保健室、階段、調理室、図工室、理科室、音楽室、教材（栽培）園、ビオトープを紹介する内容になっている。

- ③ 困ったときはどうする？編（約 6 分）

けがをした時、トイレに間に合わなかった時、忘れ物をした時等困ったときにどのように対応すればよいか紹介する内容になっている。

これらの紹介動画は、各編を単独視聴することができるが、全てを視聴しても 20 分程度になるように編集しており、5 歳児が集中して視聴できる時間を考慮して構成した。



図 1. 紹介動画の構成（各タイトル画面）

2.5 動画制作の内容

(1) 撮影プロットの検討

プロットの内容については、あらかじめ大まかなプロットを担当教員が作成した上で、学生 5 名がセリフや撮影場所等内容を検討して作成した。プロットを作成する上で、留意した点は、小学校での生活がイメージできるような流れで動画を制作すること、就学前施設の環境と小学校での環境の違いが視覚的に分かるようにすること、視聴する 5 歳児が、環境の違いについて不安を抱かないよう肯定的なナレーションを入れること、5 歳児が理解しやすい言葉を使用することであった。図 2 に示すように、就学前施設で使用している物的環境の写真を準備するとともに、ナレーションでは、「おうちで使っているのと一緒に大丈夫」等、安心できる内容を各場面において意識して作成した。

休み時間	座席からトイレへ (時間割表)	(チャイム音が入れられれば、無理なら後で音の話) 一時間目の授業が終わったら、休み時間になります。 まずは、授業の片づけ。教科書やノートを片付けます。
2		
	トイレの中	筆箱は…次の授業で使うなら、出しておきます。 休み時間の間には、トイレにも行っておきます。 もちろん、授業の途中でどうしても行きたくなくなったら、先生に伝えていくことはできます。 でも、出来れば授業中は先生の話の聞いたり、ノートに書いたりすることがしっかりと出来た方がいいので、休み時間に行っておきます。 トイレの便器、保育所やこども園、幼稚園より、少し大きいね。大人のサイズになるんだね。お家で使ってるのと一緒に、大丈夫かな。
	手洗い	洋式トイレもあるし、和式のところもありますが、和式は、だんだん少なくなってきています。 和式、使えるかな？ 手洗い場も少し高めだけど、ちゃんと届くから大丈夫。
	時間割表	きれいに手を洗って、教室に返りましょう。 授業の後の休み時間には、トイレに行ったり片付けをしたらおしまい。という短い休み時間と、20分くらいあって、外に遊びに行ける長い休み時間があります。 この時間割では2時間目の後ですね。 この時には、外に遊びに行く人も多いです。楽しみです。
授業	座席 時間割表	トイレから帰ってきたら、次の授業準備。 今度は生活科です。 生活科の教科書とノートを出しました。



図 2. 作成したプロット及び撮影動画の一部

(2) 動画撮影で使用した主な機材

動画撮影で主に使用した機材は、デジタルビデオカメラ 2 台、iPad1 台、スマートフォン数台、三脚、手撮り棒、照明である。機材以外に、セリフを書いたスケッチブック、撮影で使用する学校生活用品（ランドセル、教科書、ノート、筆記用具、給食セット等）、付箋、掃除道具、荷台等であった。

撮影後に、ジンバル（電動式の手ブレ補整）、外付けワイヤレスマイク、撮影用照明ライトやレフ版、養生テープ、マスキングテープがあれば、さらに撮影の精度も上がり、スムーズに撮影ができたと考える。

(3) 動画撮影について

動画撮影は、2 日間で行った。本格的な動画撮影は、教員も学生も初めてということもあり、撮影の技法が全く分からず苦戦することとなった。まずは、撮影のポジショニングである。出演者である学生が、どこにスタンバイをし、どのように動けばよいのかが分からず、撮影当初は、試行錯誤の連続であった。そして、撮影については、天気が悪かったことや、照明の明るさが不足していたこともあり、撮影環境が暗くなってしまった。また、音声に車の通る音や雑音が入ったりする等、思うようには進まず撮り直しが増え、思ったより時間がかかってしまった。さらに、手振れが起こっているため、編集時に動画が

揺らいでいることに気付き、できるだけ三脚を使用して撮影するようにした。

ほかにも、小学校での撮影であったため、学校や児童の情報が撮影で入ってしまうことが多く、なるべく事前に付箋等で対応はしたが、編集時にぼかしを入れる等の作業も必要になってしまった。このようなことから、撮影することの難しさを痛感した。

撮影をする中で、学生が気づいたことは、全体構成を事前にイメージして共有しておくこと、一度は必ずリハーサルをしてから本番を撮影すること、不必要な音が入るため、撮影の時間短縮のためにも編集の時にアフレコをすることを前提として撮影すること、動画撮影だけではなく、写真も撮り保険を作っておくことであった。これらのことに気づいてからは、撮影時間も大幅に短縮することができた。しかし、フレームワーク等撮影の技法について多少なりとも知識や技術を身に付けた上で、撮影に臨むべきであったと思う。

一方で、保育者を目指す学生であったため、子どもの視点や思いを大切にしながら撮影することはできていたと感じる。まず、子ども目線で撮影することである。例えば、一日の生活編を撮影する際は、大人の目線ではなく、子どもの目線の高さでカメラを設置し、子どもの身長に合わせて撮影することを心がけた。また、話す速度は子どもが聞き取りやすい速度で話し、使用する言葉は、子どもが理解できる分かりやすい言葉を用いた。また、不安を抱かせないように、表情も努めて明るく笑顔を大切にして撮影した。そして、就学前施設と異なる環境だけではなく、同じような環境を見つけて撮影することも心掛けていた。それは、子どもが安心して就学できるように配慮していたからだと考える。

これらのことから、学生は、就学前の子どもたちがもつ不安は何か、それを軽減できるためにはどのような場面を撮影したらいいか、どう伝えたらいいか等という視点を意識して撮影をしていたと考える。



写真 1. 撮影時の学生の様子

(4) 動画編集について

本学には、動画編集の作業を行える部屋（メディアスタジオ）が設けてあり、その部屋を活用して、ナレーション収録や動画編集を行った。動画編集で使用したソフトは、「Adobe Premiere Pro」であった。

編集作業は、予想よりも難航した。その理由の一つ目は、パソコンに不慣れの学生が多

くいたことである。ブラインドタッチができない学生が複数いたため、時間を費やすことになった。二つ目は、学生は、本格的な動画編集は初心者であり、「Adobe Premiere Pro」も使用した経験がないことである。そのため、ソフトの使用方法や機能については、教員に指導を受けるだけでなく、学生自身がインターネットや YouTube 等を活用して調べることで知識を得た。三つ目は、撮影時の記憶が薄れていくことである。編集作業の技術不足から、編集作業は約 4 か月であったが、約 3000 時間を費やしていた。そのため、撮影時の記憶があいまいになっており、動画を見直してもどのような意図で撮影したのか、このシーンは何のために撮ったのか思い出すことに苦労した。撮影シーンのファイルは、思い出せるようなファイル名を付けて保管する必要があった。四つ目は、紹介動画を作らなければならないという重圧があったことである。学生は、普段から SNS 等を頻繁に活用しており、個人的な動画はスマートフォンで簡単に作成している。しかし、今回は、個人的に作成するものではなく、多く子どもたちや保育者、教員が視聴するためのものであり、「誰もが見やすいようにきちんと作らなければならない」、「個人情報をいつも以上に配慮しなければならない」等様々な配慮事項があることに気付き、失敗できないというプレッシャーを感じていたようである。このようなことから、12 月頃は少し疲れた様子の学生の姿が見られた。教員は学生の主体を尊重して動画編集を指導していたが、そのようなプレッシャーは極力軽減できるよう配慮すべきであったと思う。完成時は、努力してできた達成感や自身の ICT 技術向上が感じられ、一回り成長した姿を見ることができた。

(5) 紹介動画制作に携わった学生の学び

このように、紆余曲折がありながら、約半年にわたって学生と一緒に紹介動画を制作した。制作に参加した学生に、卒業後に紹介動画制作を通してどのような気付きや学びがあったのか質問すると、以下のような回答があった。

一つ目は、幼小接続を考えるきっかけになったという意見である。在学中、授業の中では、就学前施設と小学校の接続の難しさやそれで生じる弊害、実際に行われている連携等について学ぶことはある。しかし、実際に撮影で小学校を訪れ、子ども目線で改めて環境を見た時に、様々な違いを学生自身が肌で感じることで多くの気付きや学びがあった。学生からは、小学校を見据えて保育をするという意識をもつことの重要性について気付いたようであった。これは、参加した学生が保育者になるために、学びを積み重ねた卒業間近の 4 年生であったということも良い結果を招いた要因だったのではないかと考える。

二つ目は、パソコンのスキルが向上したという意見である。動画編集を始めた頃は、パソコンをあまり活用したことがなかったため、苦手意識が大きかった。現に、編集作業をしている時は、「もうパソコンを触りたくない。使い方が分からない」という学生の声が挙がっていた。また、パソコンがうまく動作しない時は、原因もわからず教員に頼るしかない状況であった。しかし、終盤ではどの学生も編集作業をスムーズに行えるようになっていた。卒業後は、保育現場でもパソコンを使用する頻度は多くなったが、パソコン操作に苦手意識が

なくなり、仕事をする時に支障なく操作できているとのことであった。現場での ICT 活用は増加傾向にあるため、養成校として学生の ICT 技術の向上を図っていく必要があると考える。

三つ目は、動画撮影や編集の大変さだけでなく面白さに気付いたという意見である。学生は動画制作を通して、友人と協力して作ることの楽しさや、試行錯誤しながらも動画が出来上がっていくことへの高揚と達成感があつたようであった。また、完成すると「誰かに見てもらいたい」、「どのような評価が得られるか知りたい」という想いが強くなったようである。作って表現するという楽しさは、保育をする上でも重要な視点であるため、子どもたちが試したり工夫したりする保育をする上で、今回の経験が保育内容や保育方法、子どもの援助に生かしていけるのではないかと考える。



写真 2. 本学メディアスタジオ

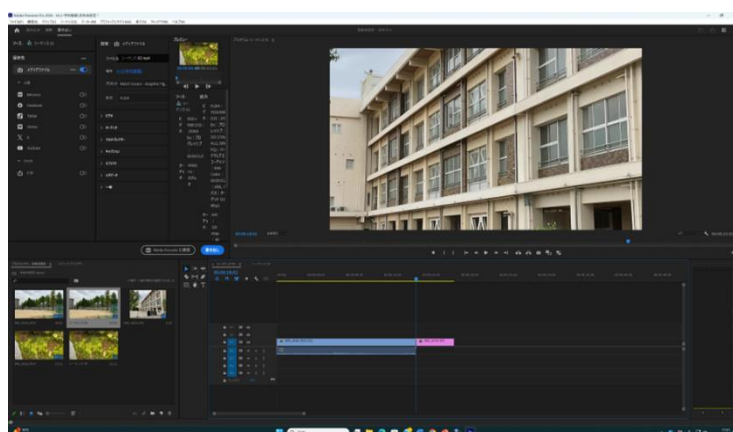


写真 3. Adobe Premiere Pro での編集作業

3. アンケート調査の実施

制作した小学校紹介動画について、活用方法や内容の精査、今後の活用の有効性を検証するため、DVD を配布した就学前施設及び小学校アンケート調査を実施した。

3.1 就学前施設を対象としたアンケート調査

(1) 調査時期

2023 年 10 月～2024 年 3 月

(2) 調査対象施設

高松市内の公立私立保育所・こども園・幼稚園（134 園）を対象に、アンケート調査を実施し、有効回答は 37 名（36 施設）であった。

(3) 調査手続き

DVD を配布する際に、アンケート調査の依頼状も同封し、回答は、オンラインアンケート（Google フォーム）を活用して実施した。

(4) 調査内容

まず、就学前施設を対象に実施した調査の主な質問項目は、①園内での視聴・活用の実態、②視聴中・視聴後の子どもたちの様子、③今後の活用の有無、④視聴した保育者からの感想について回答を求める構成となっている。質問項目は、協力園で実施した予備調査を基に、保育実務経験を有する執筆者 2 名で、それぞれの項目内容について一つ一つ協議を重ね、独自で作成した。

(5) 倫理的配慮

本研究の目的及び調査への協力については書面にて説明をし、調査への回答をもって承諾となる旨を記載し、研究協力の許可を得た。具体的には、調査への回答は自由意思によるものであり、各園の評価を行うことはないこと、回答者個人が特定されることもないこと等、調査に協力しないことによって不利益を被ることは一切ないことを書面にて説明をした。

(6) 結果と考察

① 基礎データ

回答者 37 名（36 施設）の内訳は、公立 21 園（58.3%）、私立 15 園（41.7%）であった。また、回答者の役職は、図 3 に示す通りであった。5 歳児担任クラスの視聴が 18 名（48.6%）、次いで「5 歳児クラス主任が 9 名（24.3%）であった。管理職である「園長・副園長」は、4 名（10.8%）の視聴となっている。5 歳児を担当する保育者が中心となって視聴したことが窺われる。

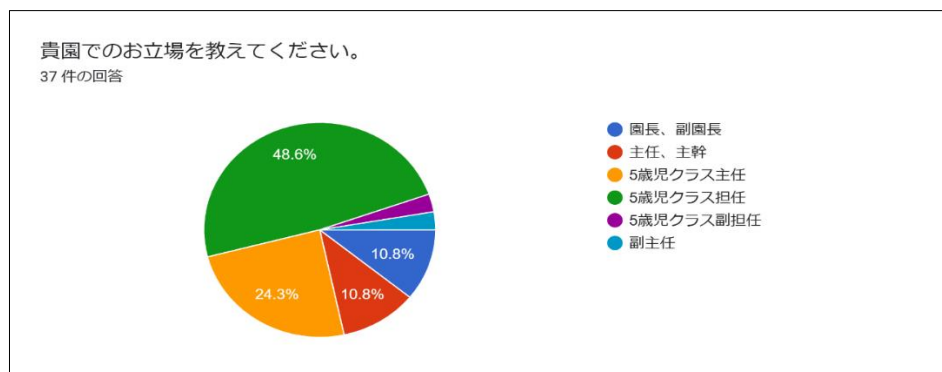


図 3. 回答者の役職

② 園内での視聴・活用の実態

動画の視聴形態（複数回答可）については、「子どもたちがクラス単位で視聴した」が 30 名（81.1%）で一番多く、次いで「園内で、保護者と一緒に視聴した」が 6（16.2%）であった（図 4）。

保護者と一緒に視聴した園の保育者からは、保護者の反応について、「具体的でわかりやすい」、「両親揃って見たい」、「一緒に小学校の一日の流れや活動について、保護者も知ることができたようで、子どもと一緒に楽しみであることに共感していた」という好意的な感想が得られた。また、「子どもよりも自分が不安だったので、学校の様子が分かって良かったと言っていた」、「大変興味深く視聴され、保護者自身にとっても学校生活に対する不安が減ったように見受けられました。」との回答もあり、DVD が保護者自身の不安軽減の一助に繋がっていることが推察される。

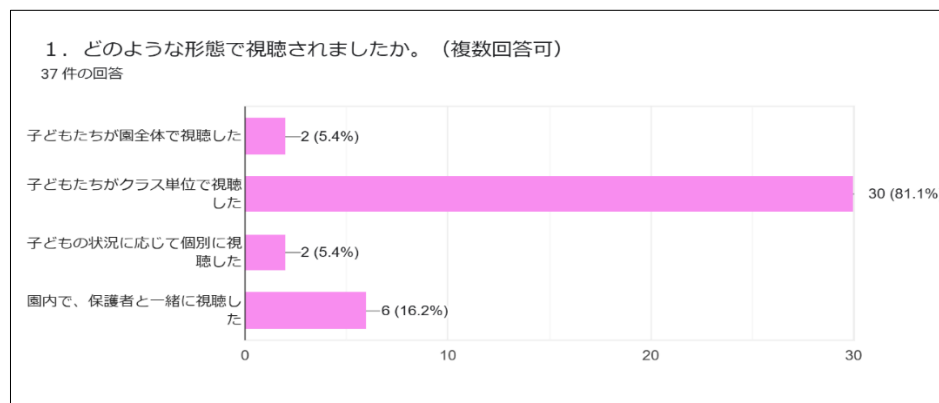


図 4. DVD の視聴形態

また、DVD の視聴方法（複数回答可）については、「全体を通して視聴した」が 28 名（75.7%）であった。「視聴後に振り返りとして子どもたちと話をした」が 23（62.2%）、「視聴しながら、子どもたちと話をした」が 14 名（37.8%）であった。その他の回答として、「1 月に 1 回目を見ました。学校体験等をした後にまた見ようと思っています。」との回答があった（図 5）。

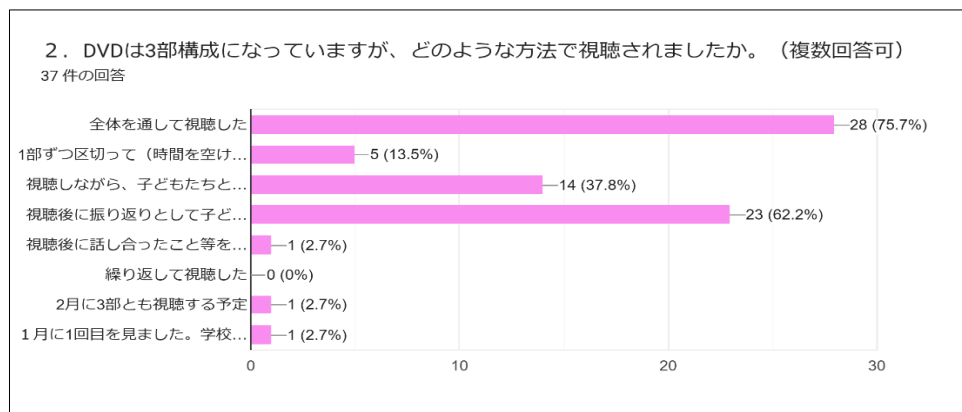


図 5. DVD の視聴方法

③ 視聴中・視聴後の子どもたちの様子

視聴中の子どもたちの様子（複数回答可）については、「全体を通してよく見ていた」が35名（94.6%）であった（図6）。「部分的によく見ていた」という回答は1名（2.7%）であったが、教室の中の様子や教科書やランドセルの片づけ方の場面をよく見ていたようであった。これらのことから、子どもたちが集中できる内容のDVDであったことが窺える。

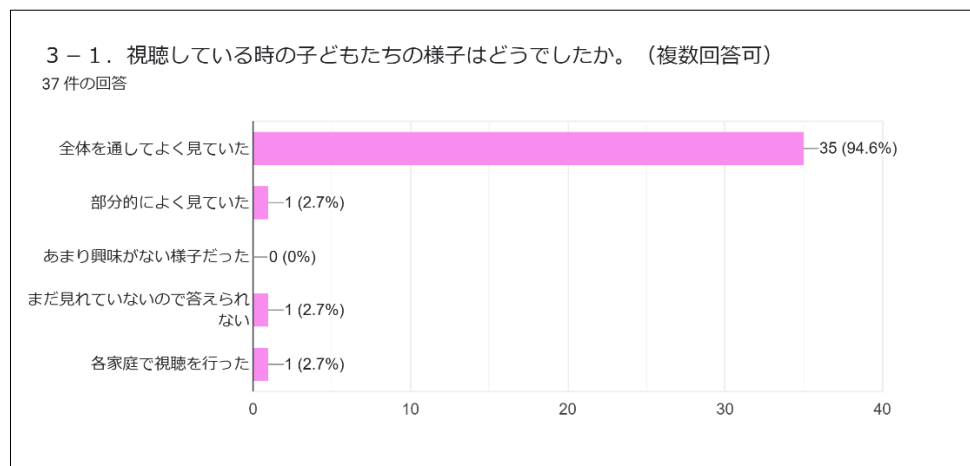


図6. 視聴中の子どもたちの様子

また、視聴後の子どもたちの様子については、自由記述での回答をいただいた。主な回答を以下に挙げる。

- ・ 分かったことを友達と確認し合っていた。
- ・ 子どもたちに「気になったことや気付いたこと」を問い掛けると、「プールが大きかったから入ってみたい」「理科室で実験してみたい」等と口々に自分が興味・関心をもったことを話していた。
- ・ 特別教室への移動が楽しみ。兄姉のいる子どもはよくわかるが、長子の場合、実際に生活している小学生の様子が見られるわけではなかったもので、理解しづらいようでした。
- ・ 「一年生になるのが楽しみ」と、就学に対する期待がより一層高まったようでした。
- ・ 幼稚園と小学校の違いに気づき友達と伝え合っていた。小学校の施設の広さや設備を見て入学を楽しみにする姿があった。
- ・ 困った時にどうすればよいかの場面で、とても安心した様子であった。
- ・ 視聴中も気付いたことを伝え合う姿がありました。視聴後に感想を聞くと「忘れ物しても大丈夫って言ってよかった」という意見が出て、子どもたちなりに小学校への不安も感じ始めているのだと思った。
- ・ 就学に向けて期待し、前向きな発言が聞かれました。
- ・ 幼稚園と同じものがあったり、経験して知っていたりすることがあると発言してい

た。「早く小学校に行きたい」と期待を高めていた。

- ・ 兄弟などがいて小学校のことを知ってるお友だちもいるので、自分の知ってることを話してみんなで共有していた。
- ・ こども園の生活と似ているところや、知っていることを友達と話していた。動画を見て気になることを質問してきた。就学を楽しみにする姿があった。
- ・ 視聴後、発見したことや分かったことなどを、聞いてみました。保育所と一緒にだね。(金曜日に荷物を持って帰ること。)図工の部屋でいっぱい作れるね。プールが広くて、遊ぶものがいっぱいあるね。階段があるね。(保育所は平屋なので…)保健室に薬がいっぱいあるね。など、それぞれが感じたことを話してくれました。
- ・ 「一年生、楽しみになった」と言っていた。
- ・ 時間に意識しながら行動していたので、時計の表示があったことで、朝早いね！や 10 分しかない！など、時間の見通しがもてたような反応が見られた。

これらの結果より、紹介動画の視聴によって、子どもたちは小学校への見通しがもてるようになり、就学への不安を軽減することができるとともに期待の高まりに繋がることができたと考えられる。

④ 今後の DVD 活用の有無

今後もこの動画を活用していきたいかという質問については、5 件法にて回答を求めた。結果は「是非活用したい」が 22 名 (59.5%)、「できれば活用したい」が 15 名 (40.5%) であり、回答者全員が DVD の有効性を感じていることが明らかとなった (図 7)。

また、「各小学校独自の DVD があるがよいと思いますか？」の質問については、「あるとよい」が 28 名 (75.7%) であった。一方で、「なくてもよい」が 7 名 (18.9%) であり、「子どもによって違う小学校に進学するため、全部を見せるのは難しい」という意見が挙げられており、いくつもの小学校の紹介 DVD を作成しても、視聴する時間が園で確保できないことが理由の一つとして考えられる。

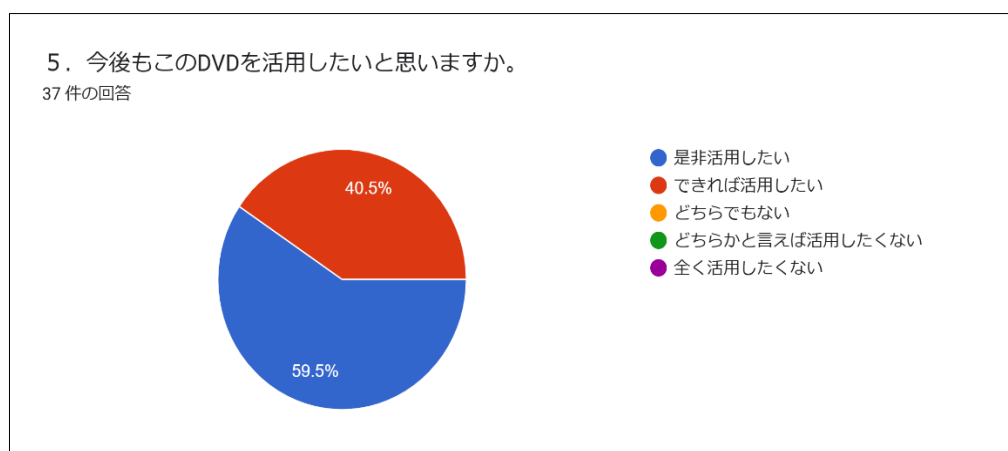


図 7. 今後の DVD 活用の有無

⑤ 視聴した保育者の感想や気づき

視聴後の保育者の感想や気付いたことについては、自由記述での回答をいただいた。主な回答を以下に挙げる。

- ・ なかなかないビデオだと思うので、良い機会でした。
- ・ 給食のエプロンの付け方や教科書や道具箱の片づけ方、実際の給食の映像もあって、具体的でとてもわかりやすかった。
- ・ 小学校へのイメージが具体的にでき、とてもよかったと思います。子どもたちも喜んでいました。また小学校への進学の話をする良いきっかけにもなりました。
- ・ 近隣小学校との交流会の中で、学校探検や授業の体験等を行ってくださっているが、限られた時間の中での体験なので、合わせてこのような DVD があると、よりいっそう具体的に学校生活の流れや困った時の対処の仕方を知ることができると思いました。また、子どもの状況に合わせて、必要な時や場面で見返すことができることもメリットだと感じました。
- ・ 色々な教室があることや、準備が必要なことは理解できたようです。学校によって、設備等がかなり異なるので、修学先小学校別に作成されたものが、一番よくわかったのではないかと思います。
- ・ 子どもたちと小学校に向けての話し合いをする機会につながり、子どもたちにとっても小学校のことをよりよく知ることができて、とても良かったです。
- ・ 学生さんの、子どもたちを思う気持ちが話し方ひとつからでも伝わる内容で、大変嬉しかった。小学校が休みの日の撮影のため仕方ないが、小学生の声も入っていたら、より親しみを感じられるのかなと思った。
- ・ 柔らかい話し方で子どもたちが聞きやすいと思った。不安に思っている子どもも小学校に向けて安心できると思う。
- ・ こども目線で、分かりやすく、小学校へ行ってみたいと思える内容でした。これを見ることで、保育所と一緒にという安心感と、やってみたいという期待感が出てきて、こども達の不安感も和らぐと思います。
- ・ 実際の高松市内の小学校で撮影した動画なので、とてもわかりやすかった。子どもたちも真剣に観ていた。今回、保護者に視聴していただく機会がもてなかったが、次年度は参観など親子で視聴する機会を設けたい。
- ・ 複数の校区に分かれて就学するため、校区ごとにあると、学校が異なっても同じものはあることを実感して、安心感につながると感じた。
- ・ 実際に交流できる機会は、コロナ禍より増えてきています。今年度は、〇〇小、△△保育所と連携して、交流前の子どもたち同士の DVD をやりとりを実践しました。視聴した DVD のように、施設や学活全体のことわかるものもあると、とてもいいと思いました。
- ・ 2月の小学校との交流の時期に見させていただきました。全体の長さは程よく1回で

見るのに負担なく見れました。小学校独自となると、園ではいろいろな就学先になるので、クラス全体で見るのが難しくなりそうだと感じた。

- ・感染症対策の観点から DVD があれば、行事などでも活用して保護者も一緒に鑑賞することができるので良かったです。
- ・5歳保護者の方には、3月の修了式周知会で視聴した。就学が近づいていることもあり、私語をすることなく最後まで熱心に視聴していた。
- ・幼小連携が再開され、小学校に行く機会が増えました。しかしその場の雰囲気緊張する姿も見られます。しかしこの様な視聴によって自分たちのペースで落ちついて知ったり学べることは、こども達にとっても、初めて入学させる子どもの保護者にとっても安心して就学できるように感じました。
- ・子ども達にとって、とても分かりやすい内容で、小学校の生活に期待が膨らんだことと思います。今回、私の施設では1年生との交流が4回程もてましたが、DVD 視聴があったことで、更に学校生活のイメージがもてたのではないかと思います。とても実りのある動画で、今後もぜひ活用させていただきたいと思います。ありがとうございました。

全体として、基本的情報としての有効性、時間構成や内容・語り等の、5歳児にとっての適時性を感じているものが多かったと思われる。これらの回答から、学生が動画制作をする上で留意した点については、一定の成果が得られたと考えられる。

3.2 小学校を対象としたアンケート調査

(1) 調査時期

2023年11月～2024年3月

(2) 調査対象施設

高松市内の公立小学校47校を対象に、アンケート調査を実施し、有効回答は18名（17校）であった。

(3) 調査手続き

DVDを配布する際に、アンケート調査の依頼状も送付し、回答は、オンラインアンケート（Google フォーム）を活用して実施した。

(4) 調査内容

主な質問項目は、①動画の視聴の有無と視聴形態、②視聴した感想、③今後の活用の有無、④各校での動画制作の有無について回答を求める構成となっている。質問項目は、協力校で実施した予備調査を基に、保育実務経験を有する執筆者2名で、それぞれの項目内容について一つ一つ協議を重ね、独自で作成した。

(5) 倫理的配慮

本研究の目的及び調査への協力については書面にて説明をし、調査への回答をもって承諾となる旨を記載し、研究協力の許可を得た。具体的には、調査への回答は自由意思によるものであり、各校の評価を行うことはないこと、回答者個人が特定されることもないこ

と等、調査に協力しないことによって不利益を被ることは一切ないことを書面にて説明をした。

(6) 結果と考察

① 基礎データ

回答者 18 名の属性は、図 8 に示す通りである。管理職である校長・副校長や、1 年生の主任やクラスを担当する教員の視聴が多かった。

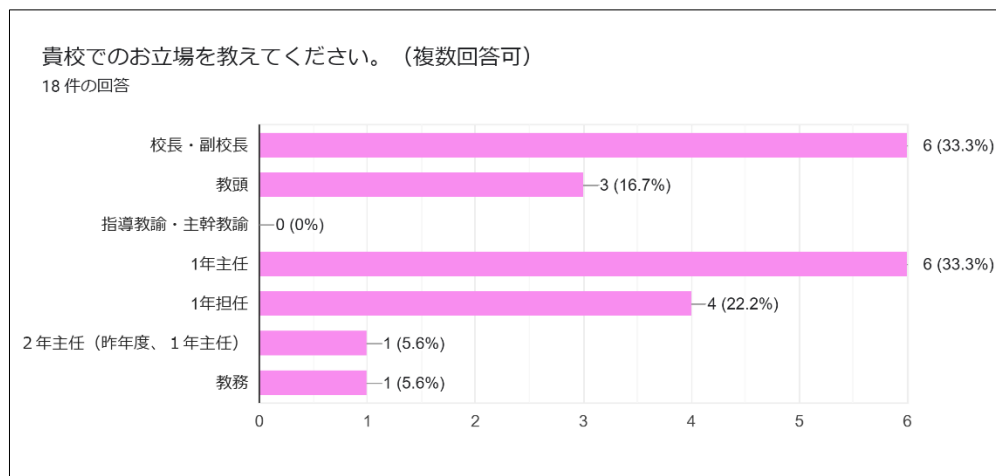


図 8. 回答者の役職

② DVD 視聴の有無及び視聴形態

DVD の視聴については、回答者全員が「視聴した」と回答した。

また、DVD の視聴形態については、図 9 に示す通りである。「DVD の内容を確認するために視聴した」との回答が 88.9%（16 名）であったが、就学前施設との交流時や次年度に向けての計画検討時、職員研修等目的に応じて視聴をしていただいた小学校も散見された。

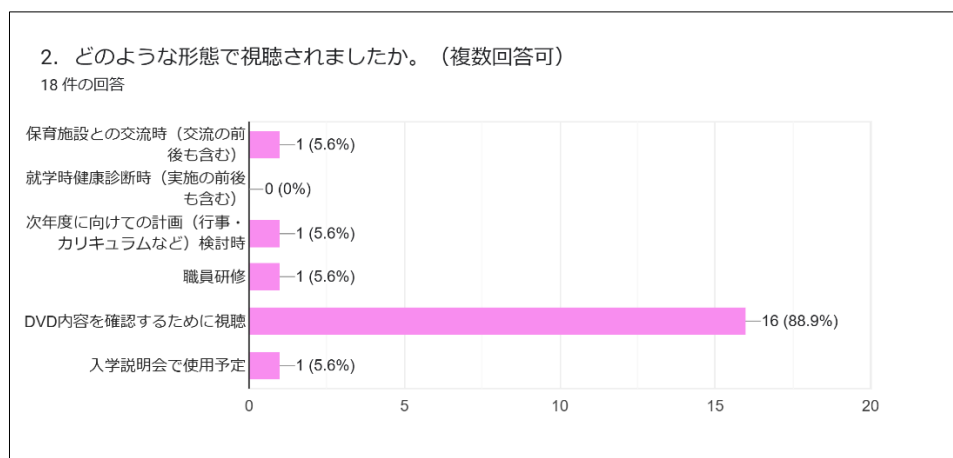


図 9. DVD の視聴形態

③ 視聴した教員による感想や気づき

視聴後の教員の感想や気付いたことについては、自由記述での回答をいただいた。主な回答を以下に挙げる。

- ・ 入学式周知会などで、保護者にも見せたいと思いました。
- ・ 3段階で小学校の生活について説明していて、意図もよく分かります。ただ、園児が興味をもって見るか疑問に感じました。
- ・ 内容が細かく1日の流れが分かるので、就学前の園児が視聴すると安心材料になると思います。一方で、月曜セットの紹介などは入学後に知る形でも良いかと思いました。靴箱やトイレなど、今の施設と小学校との比較があるのが分かりやすいと思いました。
- ・ 小学校の具体的な生活がよく分かります。幼稚園との比較があるのがよい。生活科の植物は、成長しているものが望ましいです。
- ・ 小学校の生活についてよくまとめられていると思います。実際の子どもたちが生活している様子が入っていればもっと実感がわくのではないかと思います。
- ・ 分かりやすかったです。年長児は、興味をもって見ていました。もう少しやわらかい感じだとより食いつきがよいかと思います。
- ・ 1年生の生活が具体的に示されており、わかりやすかった。小学校教員にとっても、園では異なる点がわかり、今後の声かけに役立つと思う。
- ・ 小学校の生活がよく分かる内容になっていると思いました。
- ・ 学校の様子だけでなく困った時どうすればよいかを上げてくださっていたのが、とても良いと思います。
- ・ 生活のなかで、必要なことが選ばれていてよいと思いました。
- ・ 「こまったときは どうする編」が特によかった。(個人的な印象ですが) 校内を案内する映像に微妙な揺れがあり、少し気分が悪くなる(酔うような)感じがあった。
- ・ 内容が分かりやすく入学前に親子で視聴するのによい。市内の幼保園で、ぜひ取り入れてほしい。気になった点は、映像の学校が古くて入学へのワクワク感が持ちにくい、ナレーションの声の大小で聞き取りにくいところがある、給食の映像で、つけ方が雑なため一瞬残菜か?と思った、きょうざいえんという言葉は初めて聞いた、というところです。
- ・ 内容が分かりやすく、新1年生にとって安心できる内容だと思いました。
- ・ こども園等との違いを明らかにしながらの内容であり、これまでに学校現場になかったものに編集されています。
- ・ 小学校の様子がとてもわかりやすく説明されていて、よかったです。鉛筆の持ち方を正しくすることと、給食のメニューを児童が好みそうなものに変えると、さらに良くなると思いました。

回答結果から、環境の比較がある等1年生にとっても分かりやすい内容になっていることや、新1年生でも安心できる内容になっていることが示された。一方で、植物や教材園

のシーンについての内容や、ナレーションや撮影の方法についてご指摘があった。これらについては、先述した通り、撮影や動画編集が学生にとっても初めてであったこともあり、技術不足が要因であると考える。

④ 今後の DVD 活用の有無

「今後、この DVD を活用したいと思いますか」の質問については、「是非活用したい」が 4 名（22.2%）、「できれば活用したい」が 11 名（61.1%）、「どちらでもない」が 3 名（16.7%）であった。好意的な回答が比較的多く得られたが、継続して使用されているかは、今後調査が必要である。

⑤ 各校での動画制作の有無

「今後、貴校において、このような動画を作成し、幼小交流等に活用したいと思いますか。」という質問については、「どちらでもない」が 9 名（50%）であり、「できれば作成したい」が 7 名（38.9%）、「どちらかと言えば作成したくない」が 1 名（5.6%）であった。「どちらかと言えば作成したくない」と回答した教員からは、「せっかくの交流時なので、子ども自身による直接説明を行いたいと思う。」との回答があった（図 10）。

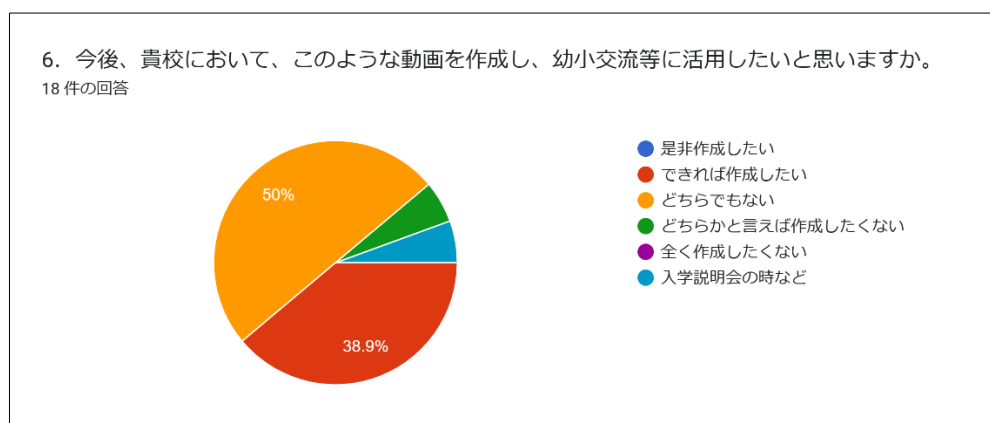


図 10. 小学校独自の動画制作の有無

4. まとめと今後の課題

- ・ 幼稚園・保育所・こども園から小学校への円滑な接続は、何よりも子どもたちのために大切なものである。そのために就学前施設では就学前の 1 年間である年長クラスで、様々な取り組みをされている。今回、動画の作成を行い DVD 配布したことで、視聴した子どもたちが学校生活に期待をもつようになったり、不安への解消になったりと、望ましい姿が見られることが検証された。接続のためのサポートとして、このような方法も有効であることを確認することができたと思われる。
- ・ 就学前施設での視聴方法は、子どもたち全員で見る、保護者と一緒に見る、時期を考えながら繰り返し見る、実際の交流の前後で見る、等様々な方法が行われていたが、活用方法をその園の実情に応じて考えていくことができるという、使いやすさがメリット

の一つであることが確認できた。今後も幼小連携に関する研修の場等で活用についての情報交換もしていただけると、この動画がより生かされるのではないだろうか。

- ・ この動画については、高松市内の小学校及び、5歳児クラスのある幼稚園、保育所、こども園すべてに配布し、共通のものを視聴できるようにしている。それを生かし、例えば1年生の入学当初、動画内容も重ねながら学校生活の説明をすることで、情報の共有化が図りやすくなるのではないかと思われる。
- ・ 大学で動画制作を行うことのメリットとして、保育者を目指す学生も制作に携わる機会を設けることができた。学生の保育や教育に関する学びを広げるためにも、このような機会を設けていくことが望ましいと感じる取り組みであったと考える。
- ・ 小学校及び就学前施設への配布後、いくつかの発達障害児デイケア施設等から、就学前に活用したいとの申し出があった。作成時、支援を要する子どもたちにとって有効な視覚支援ツールになることも想定していたので、今後そういった活用についても働きかけていきたいと思う。

引用・参考文献

- ・ 東京都教育委員会（2009）「東京都公立小・中学校における第1学年の児童・生徒の学校生活への適応状況にかかわる実態調査について」 公立小学校第1学年の児童の実態調査 東京都教育委員会
- ・ 名張市教育委員会（2018）しっかりつなぐ育ちのバトン ～接続期の子どもの育ちについて考える～ 平成28年度～平成30年度 文部科学省幼児教育の推進体制構築事業 事業実施報告書
- ・ 有馬幼稚園・有馬小学校・秋田喜代美(2002)「幼小連携のカリキュラムづくりと実践事例」 小学館
- ・ 文部科学省（2010）「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議資料
- ・ 横浜市こども青少年局・横浜市教育委員会（2012）「横浜版 接続期カリキュラム 育ちと学びをつなぐ」 横浜市こども青少年局
- ・ 横浜市こども青少年局子育て支援課幼保小連携担当（2015）「育ちと学びをつなぐ 横浜版 接続期カリキュラム 実践事例集 子どもってすごい！」 横浜市こども青少年局
- ・ 高松市・高松市教育委員会(2011)「高松っ子いきいきプラン」 高松市・高松市教育委員会
- ・ 横浜市こども青少年局保育・教育人材課幼保小連携担当（2021）「幼保小の連携・接続に関する調査 2021 概要版」 横浜市こども青少年局
- ・ (社)全国幼児教育研究協会編（2006）「学びと発達の連続性 幼小接続の課題と展望」 チャイルド社

謝辞

この動画制作にあたっては、次の施設に多くの協力をいただきました。

高松市立国分寺南小学校：撮影場所として学校での撮影を許可していただき、様々な場所の撮影、チャイム等の効果音録音にご協力いただきました。

高松東幼稚園・高松市立はらこども園：撮影のためのプロット作成にあたって、教職員、保護者の方にご意見をいただくとともに、完成版の試聴及び活用をしていただきました。また、高松東幼稚園には、動画中の写真映像を撮影させていただきました。

なお、高松市教育委員会には、動画内容の最終確認をしていただき、よりよい動画を制作することができました。

このような様々な協力をいただいたことにより、無事動画を完成させることができましたこと、心より感謝いたしております。本当にありがとうございました。

※本稿は、令和 5 年 9 月「第 1 回子ども研究所研修会」及び令和 6 年 2 月「第 2 回子ども研究所研修会」において、発表したものを加筆、再構成したものである。

また、高松大学・高松短期大学子ども研究所及び共同研究の経費で研究されたものである。